

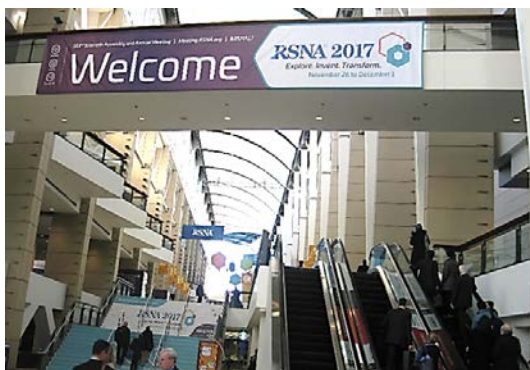
北米放射線学会(RSNA)にて研究発表し、うち 3 演題が RSNA Exhibit Award を受賞しました(2017/11/29)

テーマ：放射線防護、医療被曝、線量評価

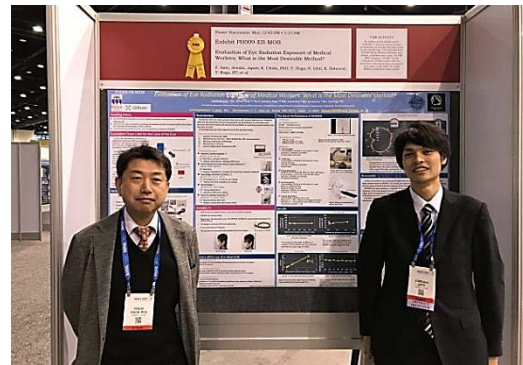
11月下旬から米国シカゴにて、Radiological Society of North America (RSNA) 2017: 103rd 北米放射線学会が開催されました。当研究所からは災害放射線医学分野(兼医学部放射線検査学分野)の千田浩一教授のほか数名の大学院生らが参加し、当分野から発表したなかの3演題(次の①~③)の研究報告が、RSNA Exhibit Award "CERTIFICATE of MERIT"を受賞することができました。①Evaluation of Eye Radiation Exposure of Medical Workers: What is the Most Desirable Method? ②Managing and Reducing the Scattered Radiation Dose in MDCT ③Occupational Exposure of the Eye in Interventional Radiology Laboratory Staff いずれの演題発表も、放射線診療時における線量評価と被ばく防護において、とても重要な内容の研究報告です。

なおRSNAは、シカゴのマコーミックプレイスで毎年開催される世界最大の放射線医学関連の総合的な国際学会であり、最先端の研究発表や数多くの教育講演そして莫大な企業機器展示等々が行われます。“北米”放射線学会という名称ですが、北米に限らず世界各地から研究者、教育者、技術者等々が集まり、参加者は例年6万人前後と最大規模の権威ある学術集会です。また研究演題の採択率はかなり厳しいと言われております。

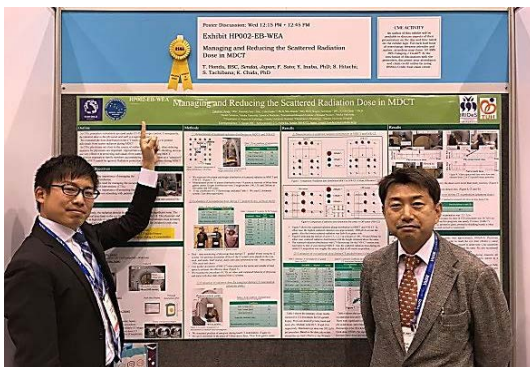
今回、千田研究室からは6題の演題が採択され、うち上記の3演題が“CERTIFICATE of MERIT”を受賞しました。加えて、CME研究演題(放射線医学における生涯教育に役立つ研究発表)に3演題が選出されました。放射線被曝に対する関心の高さが窺えます。



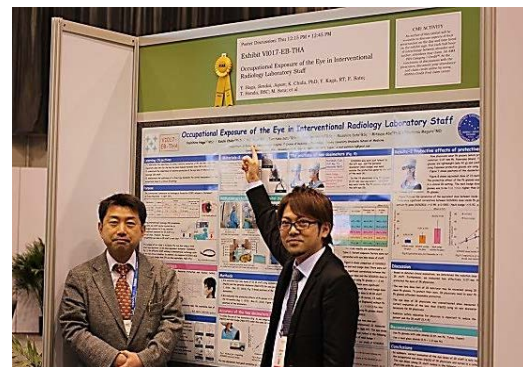
RSNA のグランドコンコース
(巨大な学会場)



受賞発表ポスター 研究演題①



受賞発表ポスター 研究演題②



受賞発表ポスター 研究演題③